

令和4年度 下市町学校園教育推進方針



令和4年4月1日

下市町教育委員会

Ⅰ 「下市町学校園教育推進方針」の位置付け

この方針は、下市町の総合教育会議（町長及び教育委員で構成）で策定された下市町「教育大綱」に基づき、令和4年度における「町立学校園教育を推進するための方向性」を示すものです。

2 令和4年度の学校園教育の重点

下市町教育委員会では、令和5年4月開校の義務教育学校「下市あきつ学園」について、次の3つの基本理念と10の方向性を設定しています。今年度のこども園、小学校、中学校では、そのことを充分意識しながら、それぞれの教育活動を進めていきます。

また、次年度へ向けた新たな教育活動を作り出すため、小・中・園の知恵の結集が必要となります。特に小・中学校は、最後の一年であるとともに、次年度のための重要な一年になると考えます。**この基本理念を全教育活動の「ものさし」としながら進めていきます。**

「下市あきつ学園」設立の3つの基本理念と10の方向性について

自由な校風

「みんなで同じことを、同じように」を過度に要求することのない自由な校風の中で、子どもが個性を輝かせ、主体的に学ぶ姿勢を育む。

未来志向

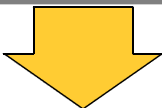
社会を生き抜く課題解決力やプレゼンテーション力を重視しながら、ICTを活用した新時代の授業に取り組み、基礎学力の定着を図る。

「絆」づくり

共に働き、お互いを尊重する気風を醸成し、人や地域との「絆」をつくる。SDGsの理念と共鳴する持続可能な学校文化を創造する。



どんな学校？と聞かれたら…



こんな学校と答えたい「10」のこと

学ぶ意欲

すぐ目に見える結果（瞬発的な学力）だけを求めず、子どもが**自ら学ぼうとする意欲を引き出し**ながら、9年間の長期的な視野をもって教育を進めている学校

生きる力

進学のための学力だけでなく、「よりよい社会」と「幸福な人生」の創り手としての**「生きる力」を身に付けることを重視**する学校

探究的な学び

授業者は伴走者としての役割を意識し、**学習の過程を探究的に進め、子どもの学びを画一的にしない**学校

教科担任制

5・6年生以上は**教科担当**が授業を行い、一人に多くの教員が関わる学校

協働学習

個別の学習と集団の学習を効果的に使い分け、**他者と協働して主体的・対話的に取り組む学習活動**を取り入れている学校

ICT機器の活用

ICT活用が進み、新しい時代の中で生き抜く力を付けようとする学校

郷土学習とSDGs

郷土学習「下市学」を地域をフィールドに実施し、持続可能な社会の実現を目指したSDGsの理念と組み合わせた総合的な学習を学びの中心に置いている学校

最小限の校則

校則やルールは最小限に見直し、**自ら考え判断する力を大切にする**学校

共生の文化

お互いの違いを認め合い、その違いを楽しみながら、**共に生きていこうとする姿勢**が、空気のように存在する学校

教職員の連携

一人の子どもは教職員みんなで教育するという理念を共有し、担任だけで抱えたり、子どもへの影響力は担任が一番であるべきとは考えない教職員集団のある学校

(1) すべての活動は「今年度限り」という意識で取り組む

- ◇ 令和4年度の1年間に行う教育活動や学校行事は、全て「今年度で終わり」という視点をもって行う必要があります。もちろん令和5年度「下市あきつ学園」でも引き続き継続していくものもたくさんあると思いますが、全く同じにはならないはずです。次年度からは9年間を見通した教育目標の上で行われることになるからです。
- ◇ つまり、令和4年度は、ひとつの活動を終えたら、次年度どうするのかを考える必要が出てきます。「廃止」するのか、形を変えて「継続」するのか、より良い形に「進化」させるのか。その方向性を各校で検討しておいて令和5年度を迎えなければなりません。
- ◇ こども園においても、小・中の進む方向を理解した上で、就学前教育を進めることが必要です。

(2) 「新学習指導要領」等の趣旨を深く理解し、具体的な実践をつくる。

- ◇ 「主体的・対話的で深い学び」という言葉だけでなく、「新学習指導要領」の理念が重要です。再度「新学習指導要領」の趣旨を確認し、具体的に日々の授業や教育活動を変革する必要があります。
- 「主体的な学び」… 子どもが自分で「やりたい!」「知りたい!」と思えるような学び。
- 「対話的な学び」… いろんな人と対話をしながら、刺激し合い、新しいアイデアを出し合うこと。
- 「深い学び」… 自分のそれまで持っていた知識と新しい情報がしっかりと結びつき、自分の中に深く定着する状態。それを必要な場面で応用できる力にすること。
- ◇ 教師は「教える」という概念を、子どもの「学び」を実現するために計画的に支援するという概念に変える必要があり、学校教育の中心だった知識伝授型指導からの転換が必要となります。

(3) 「下市学」の基礎を構築し、学習発表を「学び」に生かす。

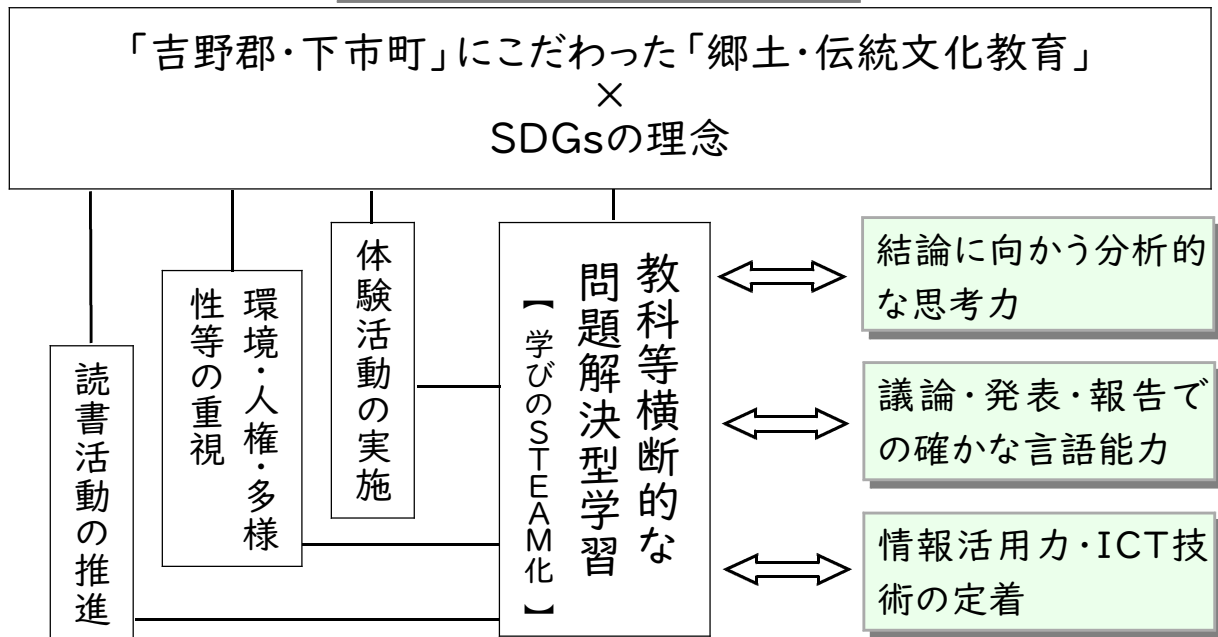
- ◇ 「SDGsの理念+郷土学習」を実践する「下市学」は「下市あきつ学園」の学習の軸になります。これは単に、SDGsのことを知る、または、下市のことを知るのではなく、「課題を見つける→自ら考える→調べる→協動的に交流する→まとめる→学習を発表する→また、課題を見つける」を繰り返す活動です。
- ◇ 教科としての学力がつくのかとか、学力が上がっているのかという観点で短絡的に評価してしまうことは、課題解決学習を進める上での弊害です。本当の学力とは何か、9年間を見通してつけるべき「生きる力」とは何か、そして、その先にある主体的で意欲的な「学び」をめざして、「令和の下市型教育」を実践する必要があると思います。長い目で見ると、それが「基礎学力」の向上につながるからです。
- ◇ 自分を含む周りの環境を改善できる、「より良い社会」と「幸福な人生」の創り手を育みましょう。

(4) 目的達成のために、風通しが良く、働きやすい職場を。

- ◇ 教師集団の質が、最も大事な子どもの教育環境であることを常に意識しながら、教職員同士のコミュニケーションを図る必要があります。それは、良識ある職業人として、お互いを認め尊重するということです。
- ◇ 子どもの情報は、意識的に全員で共有し、情報から取り残す教職員を作らないことが基本です。目的を組織的に解決するために全員が関わります。一部の教職員だけで物事を進めれば、不協和音が響きます。
- ◇ 「子どものために」という言葉によって、全てを呑み込むことは最善ではありません。教職員が安定して勤務できることこそ「子どものため」なのです。つまり「働き方改革」は何よりも「子どものため」なのです。

「下市あきつ学園」におけるカリキュラムの中軸

「下市学」の構築



- ① 独自の教科「下市学」を設定し、全ての教科の中軸に置く。「社会に開かれた教育課程」を重視し、課題解決や価値創造を目標にして教科等横断的学習を展開する。ベクトルを地域社会へ。吉野郡・下市町が教室。
- ② 「総合的な学習の時間」を中心とした問題解決型学習は、答えのない仮説や例題を設定し、全教科の知識を総動員して、その解決のために試行錯誤を行う。教員は答えを教える役割ではなく、学びの中心は対話であり、様々な情報収集、意見交流、体験活動、発表、報告などを通して、自分で考えて結論を見つけていく。
- ③ 仮説や例題は「吉野郡・下市町」に関わるテーマを、意外な角度や、グローバルな視点からSDGsの理念へアプローチ。

EX:「材木はプラスチックの代わりになれるか」(SDGs14:海の豊かさを守ろう)
「下市の人口増計画」(SDGs11:住み続けられるまちづくり)
「割り箸を世界に広めるとしたら」(SDGs15:陸の豊かさを守ろう)
「吉野川の水、世界の水」(SDGs6:安全な水とトイレを世界中に)

- ④ 各教科等においても、その学習内容の目標が「下市学カリキュラム」によって達成できるのであれば、置き換えて実施。いつ、どんな内容を実施するのか全体でマネジメントし、1～9年生までの一貫した活動を構築。
- ⑤ 全ての教科で、「対話的な活動」や「表現・言語活動」「SDGsの理解」「読書活動」「プレゼンテーション」「ディベート」など、主体的で対話的な深い学びをICTを活用しながら実現する。
- ⑥ 各学年、各教科に応じて内容を組み立て、9年生では「卒業論文」「卒業発表」のようなまとめにつなげる。
- ⑦ 総合的な学習の時間における目標(＝評価規準)

- (1) 探求的な学習の過程において課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探求的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や、実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現できるようにする。
- (3) 探求的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

3 「教育大綱」における各取組項目（学校教育19項目）の推進

① 目指す子ども像

- 変化を前向きに受けとめ、新たな時代を生き抜く子ども
- 国際社会に目を向けながらも、これからの「下市」を築いていく子ども

	取 組 項 目	対象	指標の一例
①	ICT技術で広がる新しい学びを推進する。誰一人取り残さない学びの実現。	小 中	授業等でのICT活用状況
②	5、6年に教科担任制を実施し、多くの教員で子どもに関わり信頼感を高める。	小 中	教科担任制の実施状況
③	園・小・中一貫した郷土・伝統文化教育を充実させ、課題解決型学習に取り組む。	園 小 中	カリキュラムの構築状況
④	ALTを活用しながら、実践的な英語力を育むための授業を研究する。	園 小 中	授業実践の状況

令和4年度は特に…

- 一人1台のパソコン導入され、活用は進み始めている。パソコンは道具なので、授業の質的向上、効率を上げるための活用であることが前提。そのためには教員の積極的なスキルアップはかせない。
- 教科担任制で見てきた課題を議論し、まとめ、改善して、より質の高い授業をつくりあげたい。
- 郷土学習とSDGsをコラボさせた「下市学」を具体的に実施し、カリキュラム作成の基礎を作る。
- 就学前教育として、地元への愛着を育てる「あそび・体験」等を更に研究し、郷土学習へつなげていく。

② 確かな学力を育むために <知識・技能に加え重視する3つの力>

- 文章や情報を正確に読み解き、対話する力（表現力）
- 問題を解決する科学的・分析的な思考力（思考力、判断力）
- 現実世界にときめく感性・好奇心・探求力（学びに向かう力、人間力）

	取 組 項 目	対象	指標の一例
⑤	発表・報告等で自らを表現し、他者としっかり対話できる言語能力を育成する。	園 小 中	プレゼン活動等の取組割合
⑥	具体的な読書活動を取り入れ、豊かな読書の習慣を身につける。	園 小 中	読書量、取組の割合
⑦	ICT技術を敬遠せずに使えるスキルを身につけ、情報編集力を育成する。	小 中	ICTスキル向上の機会増加
⑧	科学的なものの見方を通して結論に導く力、分析的な思考力を育む。	園 小 中	課題解決型学習等の割合
⑨	自然体験等、種々の体験活動を重視し、現実世界の価値に深く気付き、感性を磨く。	園 小 中	体験活動の実施割合
⑩	教員は、子どもの興味を喚起する授業を工夫し、好奇心・探究心を育む。	園 小 中	授業研究、研修の割合

令和4年度は特に…

- 学習発表会の実施を目指し、ICTを活用したプレゼン力、表現力、対話力の向上をめざす。
- 図書の利用を促進し、具体的な読書活動を。国語科の新指導要領には「読書」の項目が追加。
- 小・中では、「独自学習→相互学習→学習発表会→さらなる独自学習」のサイクルによる課題解決学習を積極的に取り入れる。
- 「教師がどう教えるか」ではなく、「子どもの学びをどう育てるか」を大切に授業を工夫する。授業の中で、教師だけが話をする時間以外（子ども自らが考える時間）がどれくらいあるかが、ひとつの指標。
- 「知識の獲得」だけならネットでできる。議論し、表現し、質問し、批判し、検討させることこそ「授業力」。

③ 心と身体を育むために <重視する5つの目標>

- 運動を好きにさせる中で、体力向上を図る
- 環境問題等に配慮するための知識と態度を養う（ESD … Education for SDGs）
- 高い人権意識を身に付け、多文化共生、違いを認め合う力を付ける
- 個別の教育的ニーズを把握した特別支援教育を行う
- 教育環境を常に最善の状態に維持する

	取 組 項 目	対 象	指 標 の 一 例
⑪	体育の授業において9年間一貫した効果的な指導法の研究を進める。	小 中	研究成果のまとめ
⑫	生涯スポーツの基礎として、運動好きの子どもを育てるための授業や運動部の方針。	園 小 中	児童生徒の実態調査等
⑬	環境問題等と向き合い、持続可能な社会の実現を目指す知識・態度を養う。	園 小 中	環境問題等の授業状況
⑭	お互いが違いを認め合う雰囲気を作り、初期対応を重視して「いじめ」等をなくす。	園 小 中	いじめ事案等の件数
⑮	道徳の授業やあらゆる場面で、国際社会でも通用するような人権感覚を育む。	園 小 中	人権を考え合う機会の数
⑯	個々の課題を把握し、可能性を最大限に伸ばす特別支援教育を行う。	園 小 中	特支学級授業の時数
⑰	発達障害などに対応した通級指導教室を開設し充実させる。	小	通級教室の有無・人数
⑱	教職員は常に研修(ICTや教科指導等)を怠らず、向上心をもって教育に当たる。	園 小 中	職員研修の状況
⑲	安全・安心を基本に、施設・設備を最善の状態に維持する。	園 小 中	施設・設備の点検状況

令和4年度は特に…

- 旧下市南小学校校地へ移転して2年目となり、ようやく慣れてきているが、年度末には再度新校舎に移ることになる。引き続き子どもたちの精神的なサポートが必要になると思われる。
- 多様性を尊重する気風を育てる中で、いじめに対しても敏感に反応できる集団を作り上げたい。また、いじめ事案が疑われるときは、見逃さず早期の対応を行う。気がかりなときは、「空振りを恐れず」対応する。
- 小学校の通級指導教室は順調に滑り出すことができています。可能な限り指導のマニュアル化をめざし、どの教員でも担当者となりやすい通級指導教室をめざしていく必要がある。
- 最大の教育環境は教職員であり、園・小・中の溝を埋め、一枚岩の教職員チームの基礎を作る。
- 次年度に向けて、最低限必要な校則はどのようなものなのかを白紙から議論する。

4 施策の点検・評価

<下市こども園>

	取組項目	対象	R3の現状(D)とR4のアクション・プラン	R4チェック(C) (▼選択)		R4の現状(D)とR5のアクション・プラン
③	園・小・中一貫した郷土・伝統文化教育を充実させ、課題解決型学習に取り組む。	こども園	下市こども園教育課程に基づいて保育を進めている。令和2年度はこども園として開園し手探りだったが、昨年度は、2年目として色々な場面で改善点や取組方が見えてきた。令和4年度に向けて、職員同士の保育の共通理解や情報交換を今まで以上に深めていきたい。	目標以上		
				概ね達成		
				取組半ば		
				取組不足		
④	ALTを活用しながら、実践的な英語力を育むための授業を研究する。	こども園	週1回ALTによる英語活動を遊びに取り入れている。本年度も保育の中に取り入れ、幼児期から自然に英語力を付ける基礎にしていきたい。	目標以上		
				概ね達成		
				取組半ば		
				取組不足		
⑤	発表・報告等で自らを表現し、他者としっかり対話できる言語能力を育成する。	こども園	年度末の保育参観に、1年間の発表として、保護者に歌や合奏・表現遊び等の参観を実施している。令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の為、学年別・人数制限をして実施する予定でいる。令和4年度も状況を考慮しながら実施していきたい。	目標以上		
				概ね達成		
				取組半ば		
				取組不足		
⑥	具体的な読書活動を取り入れ、豊かな読書の習慣を身につける。	こども園	学年・月齢に応じて、各クラスで絵本や紙芝居等に親しんでいる。乳幼児の時期から色々な絵本や紙芝居に触れ、興味や関心をもって活動する姿が見られる。引き続き色々な絵本等に触れ感性を豊かにする機会を増やせるようにしていきたい。	目標以上		
				概ね達成		
				取組半ば		
				取組不足		
⑧	科学的なものの見方を通して結論に導く力、分析的な思考力を育む。	こども園	こども園では、生活している中で子どもたちに驚きや発見がたくさんある。特に下市こども園は身近に自然があり四季折々の変化が見られる。本年度も子どもたちの気付きを大切にしながら、子どもたちの思考力を育てて行けるように教員のかかわりを大切にしていきたい。	目標以上		
				概ね達成		
				取組半ば		
				取組不足		
⑨	自然体験等、種々の体験活動を重視し、現実世界の価値に深く気付き、感性を磨く。	こども園	3歳児から5歳児で縦割りグループをつくり、野菜の栽培活動をしている。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の為、栽培する野菜を少なくし、密を避ける取組をした。栽培活動を通して、育て収穫する喜びを味わえるようにしていきたい。	目標以上		
				概ね達成		
				取組半ば		
				取組不足		
⑩	教員は、子どもの興味を喚起する授業を工夫し、好奇心・探究心を育む。	こども園	各保育教諭が、行事、誕生会など担当を決め保育を展開し進めている。他の保育教諭の保育を見ることで保育力を高め合っている。今後も引き続き取り組んでいきたい。	目標以上		
				概ね達成		
				取組半ば		
				取組不足		
⑫	生涯スポーツの基礎として、運動好きの子どもを育てるための授業や運動部の方針。	こども園	本園は恵まれた環境(広い運動場や固定遊具等)を利用して、運動的な遊び(ボール遊び、縄跳び、サーキット遊び、砂場遊び、色々な鬼ごっこ)を展開している。11月には、毎朝、かけ足をして体力作りに取り組んできた。本年度も継続して取り組みたい。	目標以上		
				概ね達成		
				取組半ば		
				取組不足		
⑬	環境問題等と向き合い、持続可能な社会の実現を目指す知識・態度を養う。	こども園		目標以上		
				概ね達成		
				取組半ば		
				取組不足		

	取組項目	対象	R3の現状(D)とR4のアクション・プラン	R4チェック (C) (▼選択)		R4の現状(D)とR5のアクション・プラン
⑭	お互いが違いを認め合う雰囲気を作り、初期対応を重視して「いじめ」等をなくす。	こども園	子どもたちにとって、日常生活の遊びの中で色々なことにぶつかり、相手の気持ちを理解する場面がたくさんある。そんな中で担任は見逃さずに話をする時間を作っている。今後も子どもたちの変化に気づきながら保育を進めていきたい。	目標以上		
				概ね達成		
				取組半ば		
				取組不足		
⑮	道徳の授業やあらゆる場面で、国際社会でも通用するような人権感覚を育む。	こども園	上記項目に同じ。	目標以上		
				概ね達成		
				取組半ば		
				取組不足		
⑯	個々の課題を把握し、可能性を最大限に伸ばす特別支援教育を行う。	こども園	昨年度は特別支援を要する園児が2名いた。その子に寄り添いながら、集団になじめるように保育を展開してきた。本年度も担当教員保育教諭間の共通理解を図りながら支援をしていきたい。	目標以上		
				概ね達成		
				取組半ば		
				取組不足		
⑰	教職員は常に研修(ICTや教科指導等)を怠らず、向上心をもって教育に当たる。	こども園	昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大の為、県や郡内の幼稚園こども園会の研修が、オンラインやミートでの研修が増えICTの知識を深める機会となった。今後もより一層、職員の研修を進めていきたい。	目標以上		
				概ね達成		
				取組半ば		
				取組不足		
⑱	安全・安心を基本に、施設・設備を最善の状態に維持する。	こども園	毎月1回、安全点検日を設けて、全職員で点検をしている。自分たちで改善できない時は、教育委員会にお願いし、修理・改修をお願いしている。本年度も、子どもたちの安全がいつも確保できるように点検を行っていききたい。	目標以上		
				概ね達成		
				取組半ば		
				取組不足		

<下市小学校>

	取組項目	対象	R3の現状(D)とR4のアクション・プラン	R4チェック (C) (▼選択)		R4の現状(D)とR5のアクション・プラン
①	ICT技術で広がる新しい学びを推進する。誰一人取り残さない学びの実現。	小学校	各学年によって差異はあるもののムーブノートやロイロノートでの意見の交流、またミライシードやメクビットによるオンラインドリル学習に取り組んでいる。来年度も継続した取組を進める。	目標 以上		
②	5、6年に教科担任制を実施し、多くの教員で子どもに関わり信頼感を高める。	小学校	各教科授業時数等にばらつきがあった。今年度以上に綿密な打ち合わせが必要である。また、日頃の児童の様子についても情報交換等行っていく。	目標 以上		
③	園・小・中一貫した郷土・伝統文化教育を充実させ、課題解決型学習に取り組む。	小学校	小中研修部会で9年間の下市学の計画素案を作成。各学年、下市学を意識した取り組みを徐々に実施中。来年度は、9年間を見通した活動につなげる。	目標 以上		
④	ALTを活用しながら、実践的な英語力を育むための授業を研究する。	小学校	ALTをより効果的に活用し、コミュニケーションツールとしての習得を図る。	目標 以上		
⑤	発表・報告等で自らを表現し、他者としっかり対話できる言語能力を育成する。	小学校	校内研修を重ね、スピーチや各教科において対話的活動を行っている。学習の中での言語能力は少しずつ高まっているが、日常生活の中で生かす力につながっていない面がある。国語科を中心に学習活動全般で、推進していく。	目標 以上		
⑥	具体的な読書活動を取り入れ、豊かな読書の習慣を身につける。	小学校	毎月、ビンゴや読み聞かせ、おすすめの本などの取り組みを行い、児童が図書に触れ合う機会を多く取り入れた。貸出冊数が30冊をに満たない児童について、今後も様々な取り組みをしていく。	目標 以上		
⑦	ICT技術を敬遠せずに使えるスキルを身につけ、情報編集力を育成する。	小学校	体系表を作成し、3年生からのタイピングを進めている。ホームポジションタッチタイピングの習得に関しては、継続した取組が必要である。	目標 以上		
⑧	科学的なものの見方を通して結論に導く力、分析的な思考力を育む。	小学校	問題解決的な学習の実施というところには至っていない。今後、研修の時間を取り入れるなど工夫をしていきたい。	目標 以上		
⑨	自然体験等、種々の体験活動を重視し、現実世界の価値に深く気付く、感性を磨く。	小学校	一昨年度から続くコロナ禍の影響で、これまでのような活動にはなっていない。しかしながら、地域パートナーシップ事業の取組が継続的に続いており、各学年で計画的に可能な限り実施を進めている。	目標 以上		

	取組項目	対象	R3の現状(D)とR4のアクション・プラン	R4チェック (C) (▼選択)	R4の現状(D)とR5のアクション・プラン
⑩	教員は、子どもの興味を喚起する授業を工夫し、好奇心・探究心を育む。	小学校	全職員で研修を行ったり、研究授業や授業ウォッチングを実施したりすることで、授業力や児童理解を高めてきた。来年度は、研修テーマを見直し、本校児童に必要な力をさらに身に付けさせるようにしたい。	目標 以上 概ね 達成 取組 半ば 取組 不足	
⑪	体育の授業において7年間一貫した効果的な指導法の研究を進める。	小学校	新学習指導要領対応の体育科年間指導計画を学校行事も鑑みて作成している。来年度は、これをもとに中学校教員とも連携しながら、9年間を見通して、よりよい方向へと検討を重ねる。	目標 以上 概ね 達成 取組 半ば 取組 不足	
⑫	生涯スポーツの基礎として、運動好きの子どもを育てるための授業や運動部の方針。	小学校	現段階では、時間の兼ね合いもあり、特活に中学校教員が入る予定はない。 体育の授業で、運動量を増やすような授業を展開している。	目標 以上 概ね 達成 取組 半ば 取組 不足	
⑬	環境問題等と向き合い、持続可能な社会の実現を目指す知識・態度を養う。	小学校	各学年で取り組みを進めている。 今後、下市学への移行も含め、系統立った取り組みを考え、データに残して受け継いでいく必要がある。	目標 以上 概ね 達成 取組 半ば 取組 不足	
⑭	お互いが違いを認め合う雰囲気を作り、初期対応を重視して「いじめ」等をなくす。	小学校	児童の思いをしっかりとつかみ、自分はどうしたいのか、どうしなければいけなかったのかを考えさせたい。 個々の思いを教職員や児童の関わる集団、教職員で醸成した上で、集団への投げかけを行うことを通して、集団づくりへとつなげていきたい	目標 以上 概ね 達成 取組 半ば 取組 不足	
⑮	道徳の授業やあらゆる場面で、国際社会でも通用するような人権感覚を育む。	小学校	令和3年度と同様に進め、道徳科の目指す目標の習得に近づけたい。	目標 以上 概ね 達成 取組 半ば 取組 不足	
⑯	個々の課題を把握し、可能性を最大限に伸ばす特別支援教育を行う。	小学校	定期的に全職員で情報交換する機会を取るとともに、特に気になる児童については、校内特支委員会対応を考えていく。	目標 以上 概ね 達成 取組 半ば 取組 不足	
⑰	発達障害などに対応した通級指導教室を開設し充実させる。	小学校	担当の適切な運営により、職員間の通級指導教室に関する理解と連携を進めることができた。今後は、学習補充ではなく、児童一人一人に応じた教育内容を指導の柱として、通級指導を充実させていきたい。	目標 以上 概ね 達成 取組 半ば 取組 不足	
⑱	教職員は常に研修(ICTや教科指導等)を怠らず、向上心をもって教育に当たる。	小学校	夏季休業中に職員でICTの研修を行い、Googleのクラスルームでの投稿の方法や、アドビスパークの研修を行った。個々の取組が進んでいるので、系統立てた取組への意識化を図りたい。	目標 以上 概ね 達成 取組 半ば 取組 不足	
⑲	安全・安心を基本に、施設・設備を最善の状態に維持する。	小学校	今年度同様、計画的に、丁寧に進めていきたい。	目標 以上 概ね 達成 取組 半ば 取組 不足	

<下市中学校>

	取組項目	対象	R3の現状(D)とR4のアクション・プラン	R4チェック (C) (▼選択)	R4の現状(D)とR5のアクション・プラン
①	ICT技術で広がる新しい学びを推進する。誰一人取り残さない学びの実現。	中学校	教科によって多少の差はあるが、学校全体では、使用場面を考え、授業の3割程度でICT機器を活用している。ICT機器に関する校内研修を3回実施し、教職員のスキル向上につなげ、指導に生かしている。その成果を授業や「本日の下市中」で即座に活用することで、全ての生徒が活躍できるようになってきている。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	
②	5、6年に教科担任制を実施し、多くの教員で子どもに関わり信頼感を高める。	中学校	専門知識を活かしながら視聴覚教材も補助的に活用して、児童が興味を持てる授業を行うことができた。児童は「分かりやすい」「楽しい」など概ね肯定的に捉えている。また、児童の様子や授業の内容について交流を図った。学期末には児童の様子を文章で担任に伝え、情報共有を行うこともできた。さらにわかりやすい授業にするために準備や自己研修も必要であると考えられる。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	
③	園・小・中一貫した郷土・伝統文化教育を充実させ、課題解決型学習に取り組む。	中学校	「SDGsスタートブック」を活用し、各学年の実態に合わせて学習を進めた。行事や授業と関連付けて学習したこと、SDGsに対する関心が高まった。コンテストにも応募した。郷土・伝統文化教育については「下市学」の内容について小・中で検討した。9年間を見通した郷土学習のかたちをつくり、令和4年度から実施できるものは実施していく。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	
④	ALTを活用しながら、実践的な英語力を育むための授業を研究する。	中学校	授業内で英語を使用することにより、生徒が英語に慣れ親しむ環境はできつつある。出来上がった英文を音読したり、発話したりできるが、自主的な発話がなかなかで授業外の簡単な日常会話につなげたい。ただ、ALTが日本語でも理解できてしまうので、ALTの活用に課題が残る。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	
⑤	発表・報告等で自らを表現し、他者としっかり対話できる言語能力を育成する。	中学校	各教科において、対話的な活動を行い、自分の考えを交流する場を設けた。また、調べた内容を新聞にしたり、小学生へ発表したりして、構成や内容を考えて表現できていた。一方、説得力のある説明には課題が見られる。今後は、データの信頼性や正確性を考えさせうえて、根拠のある発表や報告ができるようにさせる必要がある。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	
⑥	具体的な読書活動を取り入れ、豊かな読書の習慣を身につける。	中学校	継続して「下市読書まつり」への取組を行った。夏休みの間を通して感想文を書き、9割を超える生徒が応募した。また、グループ活動を通して、感想を伝え合い、共有する機会を設けた。しかし、休み時間中の教室や図書室の様子から、読書の習慣が身についているとはいいがたい。今後は、他の読書活動を取り入れ、これまで以上に本に触れる機会をつくる必要がある。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	
⑦	ICT技術を敬遠せずに使えるスキルを身につけ、情報編集力を育成する。	中学校	生徒にとってはタブレットがあることが自然な状態となっている。全学年、技術の時間にPCを用いて、情報スキルの向上を目指した。校外学習や行事ポスター等、様々な場面で、PowerPointを使って作品作りをした。また、発表の機会を設けてプレゼンの練習もしている。今後、さらに回数を重ねていく。また、新聞作り、観光HP等でもWordを使い、生徒たちは使いこなせている。今後の課題は、著作権等もさらに意識しながら作品作りを通して情報スキルの向上につなげたい。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	
⑧	科学的なものの見方を通して結論に導く力、分析的な思考力を育む。	中学校	全学年、観察・実験のワークシートを活用し、「目的」から「考察」までの流れを確立させることができた。また、観察・実験後の授業やノートでふり返りを行い、学力の定着を図ることもできた。定期テストにおいて、実際に行った観察・実験に関する問題の正答率も高く、成果は出ているといえる。しかし、ロイロノートを活用する機会を設けることができなかったため、教材研究のさらなる充実を目指す必要がある。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	
⑨	自然体験等、種々の体験活動を重視し、現実世界の価値に深く気付く、感性を磨く。	中学校	野外学習、校外学習、修学旅行を通して、その場所でのしか味わえないことや様々な価値観や考え方に触れることができた。これらの体験を通して子ども達は大きく成長した。これからは学んだことを地域の歴史や産業、人に目を向け学習を進め、郷土を愛する下市学に繋げていく。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	

	取組項目	対象	R3の現状(D)とR4のアクション・プラン	R4チェック (C) (▼選択)	R4の現状(D)とR5のアクション・プラン
⑩	教員は、子どもの興味を喚起する授業を工夫し、好奇心・探究心を育む。	中学校	ICT機器を活用する授業づくりの基盤は整い、子どもの興味関心を引き出す授業の組み立てはできつつあるが、探究的な学びを深めていくことが今後の課題である。 1学期に教室と職員室そして県立教育研究所とをオンラインで繋いだ研究授業を実施した。次年度も常に新鮮な気持ちで実践を積み上げていくことが必要である。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	
⑪	体育の授業において9年間一貫した効果的な指導法の研究を進める。	中学校	多くの児童生徒が運動に前向きに取り組み、仲間とのコミュニケーションも大切にしながら、「共に学ぶ」授業を展開できた。一方、今年度の体力テストの結果では、全国平均を上回っている項目が8項目中、平均2.8項目となっており体力には課題を感じる。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	
⑫	生涯スポーツの基礎として、運動好きの子どもを育てるための授業や運動部の方針。	中学校	体育の授業や体育的行事を通して、楽しさや喜びを味わうことができた。また部活動において、横断的に交流できる機会を設け、活動することができた。今後は外部と交流するなど、より活性化を図りたい。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	
⑬	環境問題等と向き合い、持続可能な社会の実現を目指す知識・態度を養う。	中学校	いろいろな教科でSDGsに絡めた内容が教科書に掲載されており、授業でも取り上げることができているが、主体的・対話的な授業を行うための工夫は、今後各教科担当で研究していく必要がある。各学年の取り組みとしても、SDGsスタートブックを活用しているが、その取り組み内容を振り返って、来年度に継続すべき点と改善すべき点を引き継いでいく必要がある。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	
⑭	お互いが違いを認め合う雰囲気を作り、初期対応を重視して「いじめ」等をなくす。	中学校	研修等を通して、職員・保護者・生徒のいじめに対する認識が変わってきている。生徒や保護者の思いに寄り添い、積極的にいじめを認知し、些細なことも見逃さない体制をつくった。また今年度、理由に乏しい校則はいくつか改めた。今後、義務教育学校に向けて自由な校風を目指し、自ら考え判断する力を大切にしていきたい。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	
⑮	道徳の授業やあらゆる場面で、国際社会でも通用するような人権感覚を育む。	中学校	推進計画に基づいて人権教育を進めた。個別の人権課題についても各学年で取り組み、昨年度の内容を改善して行うことができた。さまざまな取組のなかで、生徒の人権感覚をさらに育成していきたい。また、教師自身も人権感覚を磨くため、積極的に研修等へ参加していく必要がある。1学期に道徳授業の研究授業を行い、道徳授業の在り方や評価について等、全体で研修することができた。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	
⑯	個々の課題を把握し、可能性を最大限に伸ばす特別支援教育を行う。	中学校	今年度から今までとは形を変えて、本格的に取組を始めた。少しずつ形は出来てきている。今後、合理的配慮が適切に提供できるように改善していきたい。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	
⑰	教職員は常に研修(ICTや教科指導等)を怠らず、向上心をもって教育に当たる。	中学校	職員研修については各学期の研究授業、人権、ICTの活用、通級による指導について、などの機会を設けることができた。授業見学についてはさらに積極的に行う必要がある。特に小学校の授業については各教科で中学校の専門性を活かしつつ、授業づくりをさらに追求していく必要がある。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	
⑱	安全・安心を基本に、施設・設備を最善の状態に維持する。	中学校	危機管理マニュアルは随時検討しながら、アップグレードを行っている。 今後も点検をしつつ改善していく。 施設・設備の状態確認を確実に言い、必要に応じて修繕をし、安全に使える状態を維持している。	目標以上 概ね達成 取組半ば 取組不足	

幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント

1. 今回の改訂の基本的な考え方

- 教育基本法、学校教育法などを踏まえ、これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を活かし、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成。その際、子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視。
- 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視する現行学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成。
- 先行する特別教科化など道徳教育の充実や体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実により、豊かな心や健やかな体を育成。

2. 知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」

「何ができるようになるか」を明確化

知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むため、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していけるよう、全ての教科等を、①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の三つの柱で再整理。

(例) 中学校理科：①生物の体のつくりと働き、生命の連続性などについて理解させるとともに、②観察、実験など科学的に探究する活動を通して、生物の多様性に気付くとともに規則性を見いだしたり表現したりする力を養い、③科学的に探究しようとする態度や生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

我が国の教育実践の蓄積に基づく授業改善

我が国のこれまでの教育実践の蓄積に基づく授業改善の活性化により、子供たちの知識の理解の質の向上を図り、これからの時代に求められる資質・能力を育てていくことが重要。

小・中学校においては、これまでと全く異なる指導方法を導入しなければならないと浮足立つ必要はなく、これまでの教育実践の蓄積を若手教員にもしっかり引き継ぎつつ、授業を工夫・改善する必要。

〔語彙を表現に生かす、社会について資料に基づき考える、日常生活の文脈で数学を活用する、観察・実験を通じて科学的に根拠をもって思考するなど〕

※ 学校における喫緊の課題に対応するため、義務標準法*の改正による16年ぶりの計画的な定数改善を図るとともに、教員の授業準備時間の確保など新学習指導要領の円滑な実施に向けた指導体制の充実や、運動部活動ガイドラインの策定による業務改善などを一層推進。

* 義務標準法：公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律

※ 既に行われている優れた教育実践の教材、指導案などを集約・共有化し、各種研修や授業研究、授業準備での活用のために提供するなどの支援の充実。

3. 各学校におけるカリキュラム・マネジメントの確立

- 教科等の目標や内容を見渡し、特に学習の基盤となる資質・能力(言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等)や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のためには、教科等横断的な学習を充実する必要。また、「主体的・対話的で深い学び」の充実には単元など数コマ程度の授業のまとまりの中で、習得・活用・探究のバランスを工夫することが重要。
- そのため、学校全体として、教育内容や時間の適切な配分、必要な人的・物的体制の確保、実施状況に基づく改善などを通して、教育課程に基づく教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントを確立。

4. 教育内容の主な改善事項

言語能力の確実な育成

- ・発達の段階に応じた、語彙の確実な習得、意見と根拠、具体と抽象を押さえて考えるなど情報を正確に理解し適切に表現する力の育成(小中:国語)
- ・学習の基盤としての各教科等における言語活動(実験レポートの作成、立場や根拠を明確にして議論することなど)の充実(小中:総則、各教科等)

理数教育の充実

- ・前回改訂において2～3割程度授業時数を増加し充実させた内容を今回も維持した上で、日常生活等から問題を見いだす活動(小:算数、中:数学)や見通しをもった観察・実験(小中:理科)などの充実によりさらに学習の質を向上
- ・必要なデータを収集・分析し、その傾向を踏まえて課題を解決するための統計教育の充実(小:算数、中:数学)、自然災害に関する内容の充実(小中:理科)

伝統や文化に関する教育の充実

- ・正月、わらべうたや伝統的な遊びなど我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむこと(幼稚園)
- ・古典など我が国の言語文化(小中:国語)、県内の主な文化財や年中行事の理解(小:社会)、我が国や郷土の音楽、和楽器(小中:音楽)、武道(中:保健体育)、和食や和服(小:家庭、中:技術・家庭)などの指導の充実

道徳教育の充実

- ・先行する道徳の特別教科化(小:平成30年4月、中:平成31年4月)による、道徳的価値を自分事として理解し、多面的・多角的に深く考えたり、議論したりする道徳教育の充実

体験活動の充実

- ・生命の有限性や自然の大切さ、挑戦や他者との協働の重要性を実感するための体験活動の充実(小中:総則)、自然の中での集団宿泊体験活動や職場体験の重視(小中:特別活動等)

外国語教育の充実

- ・小学校において、中学年で「外国語活動」を、高学年で「外国語科」を導入
※小学校の外国語教育の充実にあたっては、新教材の整備、養成・採用・研修の一体的な改善、専科指導の充実、外部人材の活用などの条件整備を行い支援
- ・小・中・高等学校一貫した学びを重視し、外国語能力の向上を図る目標を設定するとともに、国語教育との連携を図り日本語の特徴や言語の豊かさに気付く指導の充実

その他の重要事項

○幼稚園教育要領

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の明確化
(「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」)

○初等中等教育の一貫した学びの充実

- ・小学校入学当初における生活科を中心とした「スタートカリキュラム」の充実(小:総則、各教科等)
- ・幼小、小中、中高といった学校段階間の円滑な接続や教科等横断的な学習の重視(小中:総則、各教科等)

○主権者教育、消費者教育、防災・安全教育などの充実

- ・市区町村による公共施設の整備や租税の役割の理解(小:社会)、国民としての政治への関わり方について自分の考えをまとめる(小:社会)、民主政治の推進と公正な世論の形成や国民の政治参加との関連についての考察(中:社会)、主体的な学級活動、児童会・生徒会活動(小中:特別活動)
- ・少子高齢社会における社会保障の意義、仕事と生活の調和と労働保護立法、情報化による産業等の構造的な変化、起業、国連における持続可能な開発のための取組(中:社会)
- ・売買契約の基礎(小:家庭)、計画的な金銭管理や消費者被害への対応(中:技術・家庭)
- ・都道府県や自衛隊等国の機関による災害対応(小:社会)、自然災害に関する内容(小中:理科)
- ・オリンピック・パラリンピックの開催を手掛かりにした戦後の我が国の展開についての理解(小:社会)、オリンピック・パラリンピックに関連したフェアなプレイを大切にするなどスポーツの意義の理解(小:体育、中:保健体育)、障害者理解・心のバリアフリーのための交流(小中:総則、道徳、特別活動)
- ・海洋に囲まれ多数の島からなる我が国の国土に関する指導の充実(小中:社会)

○情報活用能力(プログラミング教育を含む)

- ・コンピュータ等を活用した学習活動の充実(各教科等)
- ・コンピュータでの文字入力等の習得、プログラミング的思考の育成(小:総則、各教科等(算数、理科、総合的な学習の時間など))

○部活動

- ・教育課程外の学校教育活動として教育課程との関連の留意、社会教育関係団体等との連携による持続可能な運営体制(中:総則)

○子供たちの発達の支援(障害に応じた指導、日本語の能力等に応じた指導、不登校等)

- ・学級経営や生徒指導、キャリア教育の充実について、小学校段階から明記。(小中:総則、特別活動)
- ・特別支援学級や通級による指導における個別の指導計画等の全員作成、各教科等における学習上の困難に応じた指導の工夫(小中:総則、各教科等)
- ・日本語の習得に困難のある児童生徒や不登校の児童生徒への教育課程(小中:総則)、夜間その他の特別の時間に授業を行う課程について規定(中:総則)

第2期奈良県教育振興大綱

本人のための教育

一人ひとりの「学ぶ力」「生きる力」をはぐくむ
本人のための教育を行います。

1. 「学ぶ力」をはぐくむ

学びの楽しさを知る

ものの見方・理解
の仕方を学ぶ

学び続ける習慣・
ものごとの整理整頓
をつける

2. 「生きる力」をはぐくむ

成長段階に応じて
「生きる力」を
はぐくむ

リーダーシップ・
地域に貢献する力
をはぐくむ

人との良い関係をつくる力
をはぐくむ

1 心と身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ

2 学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ

3 働く意欲と働く力をはぐくむ

4 地域と協働して活躍する人を育てる

5 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる

奈良の学び推進プラン

学ぶ意欲を
喚起する

学びを継続する
態度を身に付ける

学びを社会に
生かす

郷土奈良の歴史・文化・自然